

# 山と湖水の町から

和田 登 作詩  
富澤 裕 作曲

## 一、ルルル・・・

雪とけて 村いっぱいの子どもかな

春が、春が

新しい風と喜び はこんで来た

きみも、ぼくも

花になつて笑う 青い空

空をつきぬけ 世界に広がれ

この胸のときめき 北国の

黒姫の ふもとの町から。

ランララ ララン ランララ ララン

・・・ルン ルン

## 二、ルルル・・・

しづかさや 湖水の底の 雲のみね

光が、光が

まぶしい 暑い季節に

湖水のむこうに きみは見たか

希望という名の 虹を

あの高い、高い橋をのぼり

のぼろうよ

汗がなんだ

苦しいって

そんなの生きているからには はは

かたつむりさえも

涙こらえて のぼったとき

だから、いざ この時、さあ。

## 三、ルルル・・・

遠山が 目玉にうつる とんぼかな

アキアカネが 舞うころは

コスモス畑の中に 立ちながら

空を見上げて 考える

広い宇宙のことや

地球の しあわせのことを

ア、ア

霧の深い 夜には

愛って何かと、想うこともある

遠くへ行つてしまつても

友だちでいようね、と

きのう誓つた あの瞳

父の愛 母の愛

祖父母の愛やら

愛は ナウマンゾウのむかしから

今日に 続いているのさ、ああ。

## 四、

湖水が凍り

吹雪が来た夜は肩を寄せ合い

うたよみの

一茶のおじさんのことを 語り

生きるって何かと

人生について 想うこともあるのさ

おまえよ

願いどおりにはいかないぞ と言われても

くじけたりはしない

ぼくには

わたしには

夜明けのむこうに 待っている

夢があるから

黒姫の 山のような

大きな夢さ、ああ。

## 五、

めぐり来たよ また春が

木々が芽を吹き 名乗りでた

空も高く 深くなつたような

ちいさな ちいさな 蟻のころも

天に のぼるとき

熱い 熱い願いが

願いがきつと あるからなんだ。

きみもぼくも ともに進むよ

タイコたたいて 童話の森を

そよげ若竹 高らかに

歌つていこうよ はるかな海へ

海の果てには

微笑む 地球の仲間が

仲間がきつと 待っているからさ、ああ。

待っているからさ、

ランララ ララン ランララ ララン

・・・

ア、ア。

- ★一番 初等部（一～四年）部分二部合唱
- 二番 高等部（五・六年）一部合唱
- 三番 高等部（七・八年）混声三部合唱
- 四番 高等部（九年）混声三部合唱
- 五番 全校 混声四部合唱